

学生海外研修報告書

鹿兒島大学長 殿

【授業担当者】

所属/職名: 理工学研究科 工学専攻 / 准教授

氏 名: 金子芳郎

授業科目名	国際学会特別研修
研修先 (大学・国・都市名)	国立成功大学・台湾・台南市
研修期間	令和 5年 12月 9日 ~ 令和 5年 12月 17日
<p>〔研修の目的・概要〕</p> <p>本プログラムは、将来国際的な場で活躍できる研究者・技術者となるような人材を養成することを目的とする。理工系の科学者・技術者は、就職先の規模や所在地によらずグローバルな視点・意識を持つことが極めて重要である。これらは、地域創生に貢献する人材育成の観点からも重要な要素である。その際に、事実上の国際標準語である英語について、読解や聞き取り能力に加え、発表や説明などの自己表現が行えることは、その前提となる基本的な能力といえる。これらの能力を養成するために、成功大学・大阪大学との合同ワークショップに参加し、発表/ディスカッションを行う。さらに、化学・生化学・生物学等を専門とする成功大学教員のラボツアーに参加し、ディスカッションを行うことで、英語による表現能力を養成する。</p>	
<p>〔研修の成果〕 * 事前・事後学習も含む。研修の目的や学習成果の達成状況について、また地域のグローバル化や活性化に資する人材育成の観点からの成果についても記載して下さい。</p> <p>参加した学生は十分な英語力がない中で、成功大学の教員や学生と積極的にコミュニケーションを取ろうとしていた。正確な英語を話すことよりも、積極性が大事であることを学ぶことができたのではないかと思う。現在行っている研究活動に対する考え方も変わったようである。一研究者であるという自覚を持って研究に取り組むことは重要であり、今回の研修を通してこのような考えが芽生えたように感じる。</p> <p>また、研究者・技術者として、将来どのように生きていくかを考える機会にもなったようである。台湾と日本の博士後期課程学生に対する経済的支援などの状況が異なるため、すぐに状況を変えることは難しいが、博士後期課程への進学率を向上させることは地域のグローバル化や活性化に資する人材育成の観点から重要であると感じた。学生自身も、グローバル企業(地域の企業も含む)に入社後、国際競争をしていく際には、博士の学位は必須であることを実感したようである。</p> <p>以上で述べたとおり、本研修では語学力・コミュニケーション力の重要性、研究に対する考え、研究者としての将来展望など、多くのことを自覚する機会となり、学生のさらなる成長が期待できる。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>グローバル化が進む中、世界中の研究者と対等にディスカッションを行っていくためには、語学力に加えて専門分野の深い知識と経験を身につけなければならないと実感した。そのためには、修士課程までの進学が一般的である日本の理系大学の状況を変える必要があり、博士後期課程への進学率の向上は喫緊の課題であると強く感じた。</p> <p>交換留学における経済的な支援を充実させることも重要であると思う。さらに、ダブルディグリー(両大学から学位を取得する)の制度を確立させるなど、博士後期課程への進学をサポートする環境整備は必要であると感じた。</p>	